

日本女大家政 山田喜美江、樋口ゆき子
東京大教養 磯田 浩

目的 人体の形態を幾何学的に把握して近似立体をつくり、それを展開することにより、胸部の原型設計へ導くことを目的に研究を行なった。測定した人体横断面図から、胸部を接平面群による多面体で近似して展開し、着用実験を行なった結果、多面体近似による原型設計が可能であることが確認でき、すでに報告した。今回は、この方法を用いて展開した結果からパターンを構成し、ダーツの位置や分量の検討を行なった。体型の特徴とこれらのパターンとの関連を考察して、原型作図へ発展させることを目的に研究を行なった。

方法 被験者は女子大学生5名で、スライディングゲージを用いて、横断面13ヶ所、縦断面2ヶ所、肩縦断面5ヶ所、肩斜断面6ヶ所を測定した。結果を整理して、胸部を接平面群による多面体で近似して展開した。今回は昨年の結果にもとづき、パターンに近い展開図が得られるように、なるべく大きな面で近似する方法をとった。展開図をもとに、立体模型の作成と着用実験を行なった。この接平面群の平面の構成方法によってパターンが異なった形となるため、面の構成方法の検討を行ない、ダーツ位置や分量を求めた。さらに、着用実験を行なって一つのパターンを選び、体型との関連を求めた。

結果 いく通りか考えられるパターンの構成方法のうち、3方法を決定して着用実験した結果、各被験者に合うパターンが得られ、一応の最終パターンとした。これによって、各被験者の体型の特徴、すなわち、バスの張りや厚み、肩甲骨の張り具合などと、ダーツ位置の違いや分量などとの関連が検討できた。